

公益社団法人日本ボクシング連盟 令和6年度臨時総会議事録

- | | | |
|---|-----------|---|
| 1 | 招集決議年月日 | 令和 6年 7月17日 (水) |
| 2 | 召集通知年月日 | 令和 6年 7月18日 (木) |
| 3 | 開催年月日及び時刻 | 令和 6年 8月18日 (日) 13時00分 |
| 4 | 開催場所 | Japan Sport Olympic square会議室
およびオンライン会議システムzoomを用いたハイブリッド形式での総会 |
| 5 | 出席・資格確認 | 正会員 47名中 出席 46名
(出席16名、委任30 (内 代理出席12名))
議決権数46名 |
| | 理事 | 22名中 出席 15名
欠席 3名 |
| | 監事 | 2名中 出席 1名
欠席 2名 |
| | 事務局 | 出席 5名 |
| | オブザーバー | 出席 1名 |

6 議事の経過の要領及び議案審議の結果

開会 (13時00分)

定款第18条第1項により池端敬介専務理事が議長となった。議長は、本総会は適法に成立した旨を宣した。次いで定款第23条2項により、議長および岩手県山本武司氏、千葉県塚本路明氏が署名人となることが報告され、書記には大政邦弘理事、林田豊理事が指名された。社員総会規則第5条第2項により事務局及び顧問弁護士の出席が報告され議案の審議に入った。なお、事前に申込みのあった社員については、当連盟所定のインターネットシステム (以下「本システム」という。) にログインし、会場の画像及び音声の配信を受け、本システムにより質問及び議決権行使を行う方法により本社員総会に出席した。

(1) 審議・審議事項

1. 監事2名および理事1名の追加について

この件について、事務局より説明があり、役員候補者選考委員会で選考された理事候補者1名及び監事候補者2名について、一人一人個別に審議が行われた結果、下記のとおり新理事と新監事が賛成多数で可決選出された。新役員選出について、次のような意見があった。

意見

- ・新監事候補者二名は、執行部寄りで利益相反の可能性を心配している。弁護士とかではないので、就任前に監事業務と利益相反に関するレクチャーを受けるとことが前提ということだが、もう少し突っ込んだ議論はあったのか。
- ・新監事候補者二名のうち一名は執行部から、もう一名は正会員から推薦された方で、理事会の中で審議を行い、役員選考委員会を得て選出された方である。よって執行部よりという認識はない。
- ・その二人が利益相反についてレクチャーを受け、きちんと分離した形で行うのであれば問題はない。

記

○選考方法の決議は賛成多数で可決

内容

- ・賛成だけの挙手を採用する。反対、保留は認めない。
- ・賛成の挙手のみカウントする。
- ・賛成過半数以下は否決する。

選出監事（順不同・敬称略）

鬼柳 忠彦	賛成 4 4	反対 2	可決
森 悦男	賛成 4 4	反対 2	可決

選出理事（敬称略）

高橋 藍	賛成 4 3	反対 3	可決
------	--------	------	----

以上

2. 役員定数削減に関する定款の一部変更について

今回、審議の取り下げ

3. 名誉会員（名誉会長）の承認について

今回、審議の取り下げ

(2) 報告事項

1. 委員会人事について

- ・強化委員会はオリンピックが終了したのでこれから人事を進めていく予定である。地方ブロック推進委員会については現在保留であるが、近日中に委員会を開催し進めていく予定である。その他の委員会については決定している。
- ・地方ブロック委員については、各地方の役員の高齢化等の課題がある。きちんと対応していただきたい。
- ・地方をどのように推進していくかは大きな課題である。競技人口の拡大等も含め積極的にご意見をいただきたい。

2. 顧問および会長相談役について

- ・坂巻、木庭前副会長と樋山氏に、前体制からの人数にプラスしてお願いをしたい。顧問相談役規定に準じた手順にて決定している。
- ・協力していただける顧問、相談役が多いのは賛成である。

3. IBAとWBの件について

- ・IBA（IF）のガバナンス面の問題にてIOCからロスオリンピック競技から除外される可能性が高くなってきている。実際に東京、パリオリンピックではIBA不在のままIOCタスクフォースの協力のもと競技が開催された。オリンピック競技存続を課題に、アメリカ、オランダを中心に、新IFとしてワールドボクシング（WB）を立ち上げる動きが出ている。IOCからの存続条件の中の一つとして、WB加盟国が50ヶ国以上である。IBAは重複加盟を認めないが、IOCとWBは重複加盟を認めている。現在WBに加盟している42ヶ国の中で重複加盟している国も存在する。



日本としても I B A を脱退するという選択において、選手の活躍する機会を減らしてしまう可能性が高いので重複する形での WB 加盟を検討している。

- ・このような世界の動向の中で、次世代判定システムについては I B A に寄りかかりすぎたのではないか。いつ使用できるようになるのか。
- ・次世代判定システムについては WB も興味を持っている。これからプレゼンしていきたい。 I F の採用が決定してから、競技規則等を改正後に使用に向けて進めいく事になると考える。世界の動向が不透明な中で宙に浮いている状況である。
- ・地方においては次世代判定システムの予算について心配している声もある。
- ・現在の段階において、購入費、メンテナンス等の見積もりをすることは現実的でない。その予算を検討することは厳しいと考える。段階を追って進める事が望ましいと考える。
- ・判定については I O C から I B A への懸念材料である。その為日本が率先して進めてきた事である。日本のプレゼンが成功して世界で採用されれば、次世代システムの経費も日本に入ってくるのではないか。
- ・次世代システムは完成しているのか。予算計画はどうなっているのか。
- ・システムとしては完成している。開発については助成金で対応しているので都道府県への負担は考えていない。採用され普及した段階でお願いすることはあるかもしれない。
- ・契約書を見せていただきたい。
- ・事務局でお見せします。

4. その他

本年度の全日本選手権大会について

- ・協賛金依頼を各都道府県連盟に宜しくお願いします。
- ・運営費の圧縮を考えて経費削減で進めていきたい。

議長は、以上をもって本日の議事を終了した旨を述べ、14:30に閉会した。

以上の決議を明確にするために、この議事録を作成し、定款第23条に従い議長及び出席した正会員2名が議事録署名人としてこれに署名押印する。

令和6年8月18日

議長・議事録署名人 池端 敬介



議事録署名人 山本 武司



議事録署名人 塚本 路明

